



今後は各事業所の実績を中心にした会議を

第17回北部九州三県合同研修交流会開催

九月三日(日)十時から福岡市のサンライフホテル二・三の会議室で特定非営利活動法人通院送迎センター「ステッブ福岡」(以下「ステッブ福岡」)主催の「第17回北部九州三県合同研修交流会」が開催されました。今回は各県より六団体十五名の参加があり、「さわやか」から山田・梶原・貞谷が参加しました。

初めに、「ステッブ福岡」の落合律子副理事長から開会の挨拶がありました。続いて、「ステッブ福岡」の野上隆生理事長より「本日はご多忙の中、また遠方からご参加いただきありがとうございます」と挨拶がありました。

今回は、今後の研修会のあり方について、皆様からのご意見を伺いたいと思っています。本日は有意義な研修会となりましたことをご報告させていただきます。今までは講演会と交流会をしてきましたが、今回は初めて意見交換会という形をとりました。その後、意見交換会に入りました。運動ボランティアの確保が大変難しい

報告の中で各事業所とも現在の問題点として、運動ボランティアさんの高齢化の問題や新しい運動ボランティアさんの確保が大変難しいことが共通点としてあげられました。また、運動ボランティアさんの年齢が七十五歳以上の方が増えており、年齢制限が必要なのか今後の課題との意見が出されました。そして、透析患者さんの高齢化で介護タクシーに移行する方や長期入院をされる方も増えているのが現状との報告がありました。



特定非営利活動法人 通院送迎センター「ステッブ福岡」
理事長 野上隆生氏

初めにテーマ①『各事業所
大変難しい

第49回 ボランティア研修交流会
熊本復興応援バスツアー

日にち：平成29年10月15日(日)
場所：熊本県
会費：5,000円

今回は熊本県の復興(少めしでも)応援するたためす。『熊本復興応援バスツアー』を開催します。お皆様の参加をお待ちしております。

主催：特定非営利活動法人 通院介護センター「さわやか」

「難病について」と
「難病法について」
三つ大きな項目に分けて話していただきました。
最初は、「難病について」

と「難病法について」
「難病」とは、「難病の患者に対する医療等に関する法律」(難病法)(平成二十七年一月一日施行)では、難病を「発病の機構が明らかではなく、かつ、治療方法が確立していない希少な疾病であつて、当該疾病にかかることにより長期の療養を必要とするもの」と定義されています。
(裏面につづく)

平成二十九年年度 第二回 障害者相談員研修会に参加

参加者は北九州市の各区に任命されている障害者相談員二十数名の参加がありました。初めに松本大史センター長から挨拶の後、研修会に入りました。講師に、北九州市保健福祉局総合福祉センター管理課難病支援担当係長の河津博美氏を迎えて、「難病支援室について」と題して講演がありました。



全腎協に報告書を提出
また山田理事長が「十二月に福岡県で全国腎臓病協議会(以下全腎協)主催の通院送迎研修交流会が開催されます。そこで、今日の研修会で出された意見を集約し、資料にして全腎協に報告書を提出したらどうですか」と提案をしました。提案に対し、出席者全員が賛成し、「ステッブ福岡」が報告書にまとめて、全腎協に提出することに決まりました。最後に次回開催地団体である特定非営利活動法人長崎県腎臓病協議会の金子洋副会長から「次回の研修会は各事業所の実績をまとめて、それを中心にした会議をしたいと思っています。二年後、元氣にお会いしましょう」と挨拶があり、十三時に研修交流会は終了しました。

各事業所の意見をまとめると今後の研修会は、基本二年に一回のペースで開催をし、何か重要な案件などが生じたときにはすぐに集まることを確認しました。意見を集約し

難病に関する最新情報を

みんなで提供しあおう

(前面よりつづき)
その難病のうち、次の要件を全て満たすものを、患者の置かれている状況からみて、良質かつ適切な医療の確保を図る必要性が高いものとして、更生労働大臣が指定します。

- 患者数が国の人口において0.1%に達していないこと
 - 客観的な診断基準が確立していること「指定難病」といい医療費助成の対象となります。
- 平成二十九年四月一日現在三三〇疾病が対象となっています。

- 疾病分類として
- ①神経・筋疾患(筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症、パーキンソン病など)
 - ②消化器系疾患(クローン病、潰瘍性大腸炎など)
 - ③免疫系疾患(全身性エリテマトーデス、関節リウマチ、強皮症、シエーグレン症候群など)
 - ④骨・関節系疾患(黄色靭帯骨化症、特発性大腿骨骨頭壊死症など)
- ★誰がいつなってもおかしくない病気

詳しくは冊子『北九州市難病サービスガイド』をご覧ください。

★症状に波がある(一日の中でも症状の変動がある時もある)
★外見からは全くわからない病気もあり、周りの人から誤解を受けたり、支援を受けられなかったりする

また、専門医が少ないことや診療科も様々で診断まで時間がかかる・正しく診断されていないなどがあります。

次に「北九州市でおこなっている難病支援」として(図①参照)難病患者、ご家族に寄り添った相談・支援をおこなっています。

O1157に気をつけよう

腸管出血性大腸菌感染症(O1157)は私たちにとって、恐ろしい感染症の一つです。多くの場合は問題なく回復しますが、重症化すると合併症の併発や死亡に至ることもある病気です。

初夏から秋にかけて流行


初夏から秋は食中毒菌が増えるのに適した季節であり、また暑さによる体力の低下なども重なることで、発生しやすくなります。

しかし、気温の低い時期も発生するので、夏季以外でも一年通して注意が必要です。

「O1157」の原因

「ベロ毒素」と呼ばれる猛毒を産生する大腸菌による感染症です。

図① 総合保健福祉センター管理課の難病支援内容

<p>患者・家族会支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○患者・家族会主催の講演会・相談会の開催支援 ○家族会立ち上げの相談・支援 ○家族会運営に関する相談・支援 	<p>情報発信・啓発</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「北九州市の難病」(市公式フェイスブック)の運用 ○患者会・家族会の紹介 ○講演会・相談会・交流会の情報提供 ○病質・治療・療養生活に役立つ情報についての情報提供 ○啓発イベントの開催
<p>難病相談・支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ○個別相談・支援(療養・日常生活、制度、就労など) ○講演会・相談会の開催 ○UJアサポーター相談会の開催 ○患者・家族のニーズに合った支援の在り方、具体的な取組についての検討(患者・家族・行政での定期的な協議) 	<p>総合保健福祉センター管理課 難病支援担当</p> <p>北九州市小倉北区馬場1丁目7-1 TEL (093) 522-8761 FAX (093) 522-9738</p>
<p>地域支援ネットワーク構築</p> <ul style="list-style-type: none"> ○医療・福祉・就労等の関係機関との情報共有や役割分担・連携に関する協議 ○専門家との連携、相談会等への協力依頼 ○福岡県難病相談・支援センターとの情報共有・連携・共同事業の開催 	<p>難病患者・ご家族に寄り添った相談・支援をおこないます!</p> 

大腸菌は家畜や人の腸内にも存在する細菌で、ほとんどのものは無害です。

しかし大腸菌の中には消化器症状や合併症を起こす病原大腸菌があり、出血を伴う腸炎などを起こすものを「腸管出血性大腸菌」といいます。

「O1157」の感染経路は?

感染経路は、主に細菌が付着した飲食物を口から摂取することによって感染します。

北九州市のホームページから『難病対策について』を検索いただくと『北九州市難病サービスガイド』のページが見られます。

また、北九州市では難病に関する情報や患者・家族同士の情報交換の場として『北

家畜の糞尿から土壌に細菌がうつり野菜や食物を汚染します。

人から人へうつる?
感染した人の咳やくしゃみ、汗などから感染する空気感染や感染者と触れ合うことで感染する接触感染はありませぬ。

人から人へ感染するのは、感染者の便に含まれた大腸菌が直接・間接的に口に入る場合です。

潜伏期間と感染期間

感染者は多くの場合、二〜五日の潜伏期間の後に発症します。

潜伏期間とは、菌が体内に侵入してから感染症が発症するまでの期間です。

発症から時間がたち症状が無くなった後も、一〜二週間は腸の中に存在し便の中に出てきます。

潜伏期間から症状がなくなった後の期間を感染期間といえます。

九州市難病情報フェスティック」を開設していますので、難病に関する最新情報をみんなで提供しあいましようと話されました。

最後に質疑応答が行なわれ、第二回相談員研修会は午前十一時四十分を終了しました。

を継続することが、集団感染を引き起こさないためにも大切です。

「O1157」の症状
多くは、腹痛から水様便下痢が続き、血便が現れます。発熱は高熱になることは少なく、三十七度台と軽度です。症状は、無症状から重症まで個人差があります。

「O1157」を徹底予防!
予防方法は、食中毒予防三原則「菌を付けない・増やさない・殺菌」を守ること、人からの二次感染を防ぐことです。



例えば、帰宅時や動物に触れた後などには必ず石鹸で手を洗きましょう。

感染者とタオルや衣類の共有は避けましょう。

また、洗濯時は感染者の衣類は別にし、家庭用漂白剤に漬けてから洗濯することが望ましいです。(インターネットより抜粋)